

杉本 啓文

私がアドバンスコースで神経内科を選択した理由は、以前より神経内科に興味があり面白そうだと感じていたからです。その一方でやはり、難しい学問であるというイメージも強く苦手意識もありました。ですのでこの 2 週間を通して少しでも神経内科の苦手意識を払拭すると同時に学問としての奥深さを感じることができれば、と考えていました。

この二週間では実際に患者さんの身体診察をさせていただいたり、様々な症例検討に参加させていただいたり、教科書上だけではなかなかイメージのつきにくい症状、検査などを実臨床で経験することができ、大変勉強になりました。また、それと同時に脳神経疾患の診断、治療に至るまでの難しさ、奥の深さにも触れることができました。やはり教科書通りに症状が出ることばかりではなく、治療も一辺倒の方法で上手くいくことばかりではありません。その中で、先生方が経験や経路をもとにカンファランスなどで必死に検討している姿はとてもしっかりとよく、頼もしく見えました。

私はこれから国家試験を経て医師になる上で、この 2 週間で学んだことは国家試験だけでなく、それから先の医師になってからもいかしていきたいと思います。

安田先生をはじめとする神経内科講座の先生方、また実習に協力してくださった患者さんには大変お世話になり感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

宮下 優輝

私がアドバンスコースで神経内科を選んだ理由はいくつかあります。1つ目は、私が神経系に対して複雑かつまだ明らかになっていないことが多い分野と感じ、苦手意識を持っていたからです。少しでも多くの患者さんと関わり現場で臨床的な手技や治療の考え方を学び、苦手意識をなくしたいと思っていました。実習では、毎朝あるカンファや回診、外来の時に先生方が神経診察を教えてくださいました後に実際患者さんに対して手技を行わせてくださったり、病気に関する知識、鑑別方法、治療などを丁寧に教えてくださいました大変勉強になりました。また、治療法が確立していない難病の患者さんに対するフォローアップも行っており多岐にわたって患者さんと関わる科だと身をもって実感しました。2つ目は患者さんの中でも神経疾患の割合が多く今後高齢化が進むにつれ患者さんが増え、医師として働く上で必要不可欠な分野だと思ったからです。BSL では 1 週間と短い期間ということもあり診察方法や医局の雰囲気に対し少し慣れて来た頃に終了してしまいました。その時感じたのは脳卒中の割合が多いことから必然的に高齢の方が多く、今後神経内科の知識はどの分野に進んでも必要だということでした。そのためより長期間学べるアドバンスで神経内科を選び、より深く疾患や対処法などを学べたことから選んで良かったと思っています。

最後になりますが、安田先生をはじめとする神経内科の先生方に御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

